

東洋療法いいわて

会報第 48 号

平成 28 年 5 月 1 日

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会

《写真コーナー》



平成 27 年度総会(5 月 10 日)



第 1 回生涯研修会(6 月 7 日)



東鍼連秋田大会学術発表(7 月 4 日)
袖林広正法氏



三団体健康セミナー(9 月 13 日)
笹原 稔先生



第3回生涯研修会(10月4日)
長嶺芳文先生



貯筋運動教室5日目(10月21日)



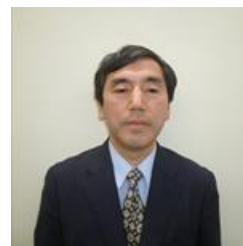
第4回生涯研修会(2月7日)
日盲連副会長鈴木孝幸先生



第5回生涯研修会(3月6日)

巻頭言

一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会
会長 佐々木 実



平成 27 年度も残すところ 2 週間となりました。今年度の岩手県師会を振り返ると、平成 28 年の「希望郷いわて国体選手コンディショニングルーム担当」、東鍼連交流会当番県、初の企画である「鍼灸マッサージ県民公開セミナー」の実施、平成 29 年度東鍼連学術大会岩手大会と続く大きな行事に向けての準備の年でありました。

即ち、コンディショニングルーム担当に向けてストレッチ・テーピング・アイシングの学習、東鍼連交流会予定現地視察、県民公開講座での配布資料の調達、そして東鍼連大会準備委員会の立ち上げ等々です。

これら準備も予定通り進み、いよいよ実行間近となっています。一層のご協力を皆様にお願いたします。

次に、無免許者との差別化のために厚労省が東洋療法試験財団を通して行う「免許保有証」公布申込が始まりました。当会からは 61 人が申し込みましたが、毎年申し込む会員が増えてくれることを願っております。これを第一歩として、国家資格免許のある治療院にかかるよう県民への啓発活動を進めて行く予定です。

また、ニチイ学館との共催である釜石小川地区での仮設住宅入居者対象者への鍼灸マッサージボランティアも 3 年目を迎え、好評につき次年度への延長も決まっております。

今後とも私たち「一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会」は、県民に役立つ会、役立つ鍼灸マッサージ治療を目指して参りましょう。国家免許保有者の自信と誇りを持って！！

写真コーナー

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長 佐々木 実

目次

伊藤庸一先生、岩手県保健功労賞に輝く！・・・・・・・・・・会長 佐々木 実

岩手県保健医療功労者表彰受賞の御礼・・・・・・・・・・相談役 伊藤 庸一

平成27年度活動報告

総務部報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総務部長 古舘 吉弘

平成27年度庶務日誌

平成27年度定時総会報告

会長会務報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長 佐々木 実

全鍼代議員総会等報告

全国都道府県師会長会議報告

東鍼連師会長会議報告

学術部報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・学術部長 佐藤 明

研修会報告

東鍼連秋田大会報告

事業部報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事業部長 館下 正則

保険部報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・保険部長 袖林 広正法

組織強化部報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・組織強化部部長 佐藤 茂

介護予防事業推進委員会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・委員長 古水 健吾

和歌山、紀の国障害者スポーツ大会視察報告・・・・・・・・・・会長 佐々木 実

東洋療法推進大会 in 愛知報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長 佐々木 実

東鍼連青森交流会に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・・・相談役 伊藤 庸一

東鍼連臨床発表「お灸について」・・・・・・・・・・・・・・・・・・袖林 広正法

各支部活動報告

二戸支部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・古舘 吉弘

盛岡支部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・総務 中渡 智彦

奥州支部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小野田サヨ子

宮古支部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・上舘 宏

遠野支部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・朝橋 正美

一関支部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・舘下 正則

大船渡支部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・古水 健吾

岩手県師会文庫一覧

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・広報部長 松下 優子

奥付

広告・・・・・・・・株式会社 カナケン

伊藤庸一先生、岩手県保健功労賞に輝く！

会長 佐々木 実

平成 28 年度の岩手県保健功労賞に当会の相談役伊藤庸一先生が選ばれました。

伊藤先生は昭和 56 年当会に入会され、平成 7 年から 19 年間理事を務められました。

主に保険部長として低レベルであった当会の鍼灸マッサージの保険取扱いを全国レベルにまで押し上げることに尽力されました。

また、平成 22 年から 4 年間は副会長を歴任され、特に地元一関で毎年行われる「一関国際ハーフマラソン大会」では第 2 回より連続 33 回に亘って選手へのマッサージボランティアを指導実施して来られました。

今回、これらの実績が評価され、岩手県知事表彰を受けられることとなりました。保健功労賞は当会としては 7 人目、その他の県知事表彰を含めると 10 人目の受賞ということになります。誠におめでとうございます。

岩手県保健医療功労者表彰受賞の御礼

去る 11 月 19 日(木)、平成 27 年度保健医療功労者表彰式がエスポワールいわてを会場に行われました。受賞者は医師、歯科医師、薬剤師、保険師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、歯科技工士、そして鍼灸マッサージ師からは私が受賞し、合わせて 21 名の方々が受賞いたしました。この日は、県内外の病院や診療所、老人保健施設などに従事した医師、歯科医師 15 名に対する地域医療従事者感謝状贈呈式も併せて行われました。午後 1 時からの表彰式でありましたが、式典は開式から式辞、表彰状授与、来賓祝辞、謝辞、来賓紹介と進み閉式まで 40 分を要し、その後記念写真撮影があり終了となりました。おごそかな雰囲気の中ではありませんでしたが、受付後に主催者、受賞者、来賓の方々が揃った時点で、式典の流れや説明を受けリハーサルが行われ少し緊張がほぐれた感じがいたしました。

冒頭、達増拓也知事が式辞で「長年にわたり、それぞれの専門分野で熱意をもって精励、尽力され岩手の保健医療の発展に多大な貢献をされた。今後も卓越した識見と豊かな経験で一層の支援、協力をお願いする」と述べ各受賞の代表者に表彰状や感謝状を授与されました。

多くの来賓のご臨席をいただき、田村誠県議会議長、石川育成県医師会会長が祝辞を寄せ、謝辞では受賞者を代表して医師の沼里進氏（盛岡市）が「身に余る光栄で、この感激は終世忘れることはない。この栄誉を糧に、これからも力のある限り一層努力する」と述べられました。私も今回その栄に浴することができましたことは、昭和 56 年の入会以来、ご指導いただきました諸先輩方、業友、会員の皆様方のお陰であり感謝申し上げる次第であります。

また、受賞に際し佐々木実会長の推薦がなければ成しえなかったことであり、心より感謝申し上げます。

これからも保険医療に携わるものとして、県師会の発展に貢献していきたいと思っております。遅くなりませんがここに受賞の御礼を申し上げ報告といたします。

平成 28 年 2 月 12 日

相談役 伊藤 庸一

平成 27 年度活動報告

総務部報告

総務部長 古館 吉弘

平成 27 年度庶務日誌

- 4 月 1 日 盛岡医療福祉専門学校鍼灸科入学式に会長出席（ホテル東日本）
同日 法人市民税納入
 - 4 月 2 日 ニチイ学館と「釜石小川地区高齢者サポートセンターでの鍼灸マッサージ慰問治療」の契約を交わす
 - 4 月 6 日 法人県民税納入
 - 4 月 19 日 第 1 回監査会並びに第 1 回執行部会議開催（アイーナミーティングルーム）
 - 5 月 10 日 第 1 回理事会並びに第 7 4 回定時総会開催（アイーナ 501B）
 - 5 月 24 日、25 日 全鍼代議員総会、政治連盟総会、協同組合総代会、東鍼連平成 26 年度第 3 回理事会に会長出席（東京）
 - 6 月 10 日 公益目的支出計画実施報告書を提出し、受理される
 - 7 月 4 日、5 日 東鍼連秋田大会に 13 名参加（田沢湖芸術村温泉ゆぽぽ）
 - 7 月 12 日 岩手県視覚障害者友好協議会総会にお祝いメッセージを送る
 - 7 月 17 日 第 16 回全国障害者スポーツ大会選手コンディショニングルーム設置について、第 1 回会議に佐々木会長出席（盛岡市合同庁舎）
同日、佐々木会長が岩手労働基準局労災補償課を訪れ「岩手県鍼灸マッサージ保険協会」の責任者（会長）が佐々木実に代わったことを報告
 - 8 月 9 日 山形県師会創立 90 周年記念式典にお祝いメッセージを送る
 - 8 月 23 日 第 2 回執行部会議開催（アイーナ）
 - 10 月 4 日 第 2 回理事会開催（アイーナ）
 - 10 月 24 日、25 日 佐々木会長が和歌山障害者国体視察（和歌山市、紀の川市）
 - 10 月 25 日、26 日 東洋療法推進大会 in 愛知に佐々木会長出席（名古屋 ホテルメルパルク）
 - 10 月 30 日、11 月 1 日 東鍼連保険部長会議に袖林保険部長出席（天童市）
 - 11 月 3 日 前東鍼連会長梅宮光男氏の旭日双光章受賞祝賀会に祝電を送る
 - 11 月 8 日 全国都道府県師会長会議に佐々木会長出席（東京 ホテルルポール麹町）
 - 11 月 7 日、8 日 東盲連岩手大会に来賓として古館副会長代理出席（つなぎ温泉 ホテル紫苑）
 - 11 月 8 日 東盲連岩手大会に祝電を送る
 - 11 月 15 日 東鍼連師会長会議が仙台市荒町市民センターにて開催され佐々木会長出席
 - 11 月 19 日 岩手県保健功労者に前副会長（現相談役）の伊藤庸一氏が選ばれ、受賞式に出席（エスポワールいわて）
 - 12 月 25 日 全国障害者スポーツ大会選手コンディショニングルーム設置第 2 回会議に佐々木会長出席（盛岡勤労福祉会館）
- 平成 28 年
- 1 月 10 日 第 3 回執行部会議開催（東山観光ホテル）

- 1月17日 視覚障害者団体連絡協議会正副会長会議に、佐々木会長出席（岩手マッサージセンター）
- 2月7日 視覚障害者団体連絡協議会記念講演会（第4回研修会）開催（アイーナ）
- 3月16日 盛岡医療福祉専門学校鍼灸化卒業式に会長出席（ホテル東日本）
- 3月20日 第3回理事会開催（アイーナミーティングルーム）
- 3月27日 全国障害者スポーツ大会希望郷いわて大会実行委員会会議に会長出席（マッサージセンター）

他、県師会情報を92回送信しております。

平成27年度定時総会報告

総務部長 古舘 吉弘

平成27年度第74回定時総会が5月10日（日）にアイーナ5階501Bにおいて開催されました。今年は、例年より多くの会員が出席し、盛大に行われました。

始めに資格確認を行い、5月9日現在会員数106名中、出席41名、委任状54名、合計95名、欠席11名となり、過半数を超えているので総会は成立する旨を報告しました。

佐藤副会長の開会のことばに続き、佐々木会長と下佐顧問のあいさつがあり、続いて来賓として出席いただいた日盲連副会長の及川清隆様より祝辞をいただきました。

祝電披露の後、議長に大船渡師会の古水健吾氏、議事録記録人に盛岡師会の井口力氏、議事録署名人に二戸師会山本孝一氏と遠野師会佐々木きみ子氏が選出され、議事に入りました。（会長挨拶内容）

お忙しい中41名という最近にない数の出席者で総会を開くことができましたことを、うれしく思います。全鍼や県師会の事業や行事に積極的に参加し、治療技術の習得や業界を取り巻く情報を入手し、役員任せ、人任せではないしっかりと自分の考えや意見を持っていたきたいと思っています。

平成26年度の県師会を振り返りますと、9人の入会者があり、これはここ10年では最も多い数で、会員数も東北では3番目の数で、全国的に会員減少をたどる中嬉しいことです。

次に、公益目的支出の1年目の報告が無事終わりましたが、3年後公益目的支出が終わった後の財務体制をどうするかについても皆さんのご協力により、その方向性を決めることができました。

また、釜石で行っている仮設住宅入居者への鍼灸マッサージボランティアですが、好評につき昨年度は毎週日曜日に実施することとなりました。担当して下さった皆さんにお礼申し上げます。

介護予防委員会では、復興資金を活用してふくし岩手との協賛で盛岡などで震災被災者への転倒予防体操や貯筋体操教室を開くこともできました。

北上市で行われたアジアマスターズ陸上競技会では、二日間に亘って選手に鍼灸マッサージボランティアを行いました。鍼灸マッサージ師会がこれらの大会に協力したのは初めてのことで、開催者側には大変喜ばれました。

その他、運営規定や選挙管理規定の改正案がまとまるなど平成26年度は多くのことを成し遂げられた年だったと思っています。これも会員の皆さんの協力の賜物と感謝いたします。

来年は、岩手国体が行われますが、県から障害者国体で選手のケアをしてほしいと申し出が来ております。また、来年の秋には東鍼連岩手交流会、再来年の夏には東鍼連岩手大会が

予定されております。それらに向けて準備委員会の設置を予定しておりますので、みなさんの一層のご協力をお願いして挨拶いたします。

議事について報告（総会議事録より）

議事

第1号議案 会長会務報告（佐々木実会長）

1. 大阪でのベビーマッサージ死亡事故について、業務上過失致死で告訴されているが、全鍼ではあはき法違反でも告訴するように厚労省と協議していた。が、最終的には行ったことの重さから、医師法違反で告訴することとなった。今後無免許による事故等が起きた場合、あはき法違反で訴えて行きたい。
2. 開業者は保健所からもらえる届け出済証明書を是非院内に貼って国家資格であるという事をアピールして欲しい。
3. 鍼灸専門学校の入学式に出席してきたがだんだんと入学者の数が少なくなっている。
4. 県議会議員の神崎浩之顧問を県師会として応援していきたい。

第2号議案 平成26年度各部事業報告とその承認

総務部、庶務部、学術部、事業部、保険部、組織強化部、広報部、介護予防事業推進委員会、無免許対策委員会より順次報告があった。

第3号議案 平成26年度収支決算報告並びに、監査報告とその承認

財務部長より26年4月1日から27年3月31日までの決算報告があり、続いて監事から帳簿や領収書綴り等にも誤りがないこと、公益目的支出も適切に行われていることを認めるとの監査報告があった。

第2号議案、第3号議案は全会一致で承認された。

第4号議案 運営規定の改正とその承認

- (1) 「地域師会」の呼び名を「地域支部」と変更する。また、「師会長」を「支部長」と変更する。（県師会との紛らわしさを避けるため）
- (2) 会員の入会促進をはかるため、全鍼師会の入会規則に合わせ、退会後3年以内の入会者には入会金を免除する。

以上の改正点が会長より説明され、賛否を採った結果、全会一致で承認された。

第5号議案 選挙管理規則の制定とその承認

選挙管理規則を制定し、それに則って理事選挙を行いたいとの会長の説明があり、賛否を採った結果、全会一致で承認された。

第6号議案 選挙管理人の選出について、その承認

選挙管理規則の制定を受け、選挙管理人3人を選びたいとの説明があり、小澤信男氏、大澤睦子氏、明内孝吉氏の3人が推薦され、全会一致で承認された。

第7号議案 一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会会費及び入会金規則改正についてとその承認

賛助会員会費を2万円から3万円に値上げしたいとの説明があり、変更案は全会一致で承認された。

第8号議案 東鍼連岩手大会及び、交流会の準備委員会の設置についてその承認

来年度は東鍼連交流会が、再来年度は東鍼連大会が岩手県主幹で予定されている。そこで準備委員会を作りたい。委員長に佐々木実会長、副委員長兼東鍼連財務局長に佐藤明氏、副委員長兼東鍼連事務局長に佐藤茂氏とし、委員に理事全員（13名）と各支部から推薦された清水寛平氏、姜奈希氏、中村龍哉氏、田沢博崇氏の17人が当たることとなり承認された。

第 9 号議案 岩手障害者国体ボランティア実施についてとその承認

来年度開かれる岩手障害者国体で選手のコンディショニングをして欲しいと県より依頼があり、協力することを理事会で決定した。担当競技は、グラウンドソフトボール、サウンドテーブルテニス、アーチェリーの 3 競技であるとの説明が会長よりあり、全会一致で協力して行くことに決まった。

第 10 号議案 自由診療患者の掘り起しについて

保険診療や介護予防事業への参入などが進まない中、本来の自由診療の部分で無免許者や柔整師などに取られている患者の掘り起こしをして行きたい。皆さんの意見をお聞かせ願いたい（会長）。

立花梅子 保育士協会との連携も良いと思う。また、あはき啓発のイベントを行ってはどうか。

第 11 号議案 岩保会のあり方について

20 年以上前に労災保険の取り扱いなどの為に鍼灸師会と共同で「岩手県保険協会」という会を作ったが、長期間放置状態となっている。鍼灸師会と連絡を取りながら、当会がこれまで通り中心になって岩保会の維持発展に力を注いで行きたいと会長から説明があった。

第 12 号議案 平成 27 年度各部事業計画について（報告）

各部より平成 27 年度事業計画説明があった。

第 13 号議案 平成 27 年度予算について

平成 27 年度予算についての説明が財務部長よりあった。

第 14 号議案 その他

1. 排鍼処理の係りについて（株式会社環境整備と井口理事が個人契約を結んだ。容器はペットボトルにて回収する）
2. 会報の名前について（名称は「東洋療法いわて 会報第〇〇号」とすることに決定した）
3. 東鍼連秋田大会について総務部長より説明があり、参加希望者は 5 月 30 日までに各支部でまとめて総務に届けるようにとの話があった。

松下広報部長の閉会のことばで総会は終了し、その後マリオスの濱野井で懇親会が行われました。

会長会務報告

全鍼代議員総会等報告

会長 佐々木 実

5 月 24 日、25 日に東京の「ルポール麹町」で行われました全鍼代議員総会、東鍼連第 3 回理事会、全鍼政治連盟総会、協同組合総代会に出席して参りましたので、その報告をします。

平成 27 年度全鍼定時代議員総会

委任状含め 107 名の出席でした。話し合われた主なものは無免許問題、保険取扱い問題です。

無免許問題については、差別化するための免許保有者カードがいよいよ来春発行の運びとなり、執行部からはその説明が詳しくされました。そしてこれをきっかけに、広告の制限一部解禁や、国から県や保健所等への無免許者取り締まり指示に繋げて行きたいとの意気込みが示されました。

しかしながら、代議員の多くからは、「このカードが出されても真の意味での無免許者撲滅にはならない。最終的には昭和 35 年判決を覆すための裁判が必要だ」との意見が出され、執行部もそれを進めている日盲連に協力して行きたい。全鍼顧問弁護士谷口氏も「裁判をやる意味はある」と明言しました。

保険取扱いについては、医師の同意書拒否問題、協会健保の嫌がらせとも思える行動等が各県から紹介され、「全鍼でも厚労省との定期協議で話してはいるが、担当官が代わったりすると、また最初から説明をして行かなければならず、それが故意ではないかと思いたくなるほど担当官が代わる。それでも議連の助けを借りて、どうやら一部負担払いがきちんと明記される目途がつきつつある。医師への同意書依頼 Q&A もそれらの進み具合を見ながら作って行きたい」との保険局や会長の答弁がありました。

財務局からは、全鍼の会員が減り、年度初めの行事を行うため 4 月に 2 千万円を銀行から借り、各都道府県から会費が集まるのを待って 8 月に返していること。今回の保有者カード発行に際し、東洋療法財団に前もって金を納めなければならないので、そのために 1500 万円を銀行から借りる予定であることなどが説明され了承されました。

地域健康づくり委員会からは、「今年から始まった地域包括ケアシステムを理解してもらうために資料を提供して行きたい。どのような参入が出来るかの具体策は、これからの重要な検討事項である」との説明がありました。

また、全鍼が国会議員を集めて訴えたことの一つ、「鍼灸師を機能訓練士に入れて欲しい」という件については、今後 1 年間厚労省の担当官が現場視察と聴取を重ね検討して行く」ということに留まっているとのことでした。

2020 年に行われる東京オリンピックへの当会の協力としては、キャンプ地（県）での治療奉仕や開催時に競技場における施術提供となる見込みである」との説明でした。

最後に理事役員改選選挙が行われ、27 人の立候補者中、24 人が信任を受け当選しました。東北から出た笹川先生は落選、梅宮先生は当選し、副会長に任命されています。

なお、会長は杉田氏の再任で、副会長には梅宮先生の他に、伊藤（大阪）、堀（和歌山）、太田（神奈川）、中野（徳島）の諸氏が選ばれました。

ただ、選挙管理委員会のもたつきや、票数の発表がなかったこと、開票の公明性が不鮮明なことなどから、会議後それらの開示と改善を求めて出席東北代議員連名で書面を全鍼に送りました。

平成 26 年度東鍼連第 3 回理事会

24 日午後 9 時から 2 時間余り、東鍼連会長宿泊部屋で行われました。

主に秋田大会の準備状況の説明でした。

また、秋田県師会長が小松田先生から高橋和彦先生に代わったことが報告されました。

平成 27 年度政治連盟総会

会議は 25 日 9 時より 10 時 15 分まで昨日と同じ会場で行われました。議連の代議士や秘書が挨拶に見えられました。

報告では、「会員が昨年より少し増えたこと」、「政治家への説明や運動は粘り強く時間をかけてやって行かねばならず進みが遅いと思われるかもしれないが、それでも前進を感じられるようになって来ている」とのことでした。

それから今後は活動を政治だけでなく保険や無免許対策にも広げて行けるように名称から

「政治」を取って「鍼灸マッサージ連盟」としたいとの提案があり、満場一致で承認されました。

最後に役員改選が行われましたが、杉田委員長再任ということで落ち着きました。

協同組合総代会

会議は、政治連盟総会の後の1時間余り行われました。

昨年度の売り上げは一昨年より15パーセントの減となっているとのことですが、売り上げが伸びているのはカレンダーや手ぬぐい、減っているのは鍼や白衣、梅干し販売など。

また、昨年からサーティーワン・アイスクリームの販売に着手したとの説明がありました。

国からの補助金をあてに開いた7月の研修会は、補助金の下りず150万の赤字を出してしまったとのこと。詰めが甘いというか、杜撰ですね！

最後に役員改選が行われ、堀理事長の再任と決まりました。

全国師会長会議報告

会長 佐々木 実

11月8日（日）、東京の「ホテルルポール麹町」にて全国師会長会議がありましたので出席して参りました。

議題は五つで、

1. これまでの事業財務報告
2. 今後の事業について
3. 定款及び諸規定の変更について
4. 各師会からの提案事項について
5. その他

1. と 2. では、

（事業局） 東洋療法愛知大会では延べ人数1,600名を超える参加者があり、大いに盛り上がった。だが、今後は諸物価の値上がり等から参加費5千円では、開催が難しくなっている。来年は大会15周年ということで功労者の表彰などを行う予定。場所は「品川プリンスホテル」で、9月22日、23日に行う。

（障害局） 視覚障害者の職業訓練は上期は4名あり、無事全員が修了証書を手にした。下期は希望者がなく、行わないこととなった。

（保険局） 来年6月が医療費改定時期となっている。情報が入り次第お知らせする。

再来年の消費税アップに関して厚労省から「マッサージ営業で、個人業者で青色申告している方の確定申告データを見せて欲しい。それを見てマッサージ料金への上乗せ分の参考にしたい」と言ってきている。プライバシーは守るので協力して欲しい。データを全鍼まで送ってもらいたい。

反社会的団体が結託して柔整療養費詐欺事件が起きた。柔整の保険取り扱いは昨年度は3.3パーセント減（マッサージ4.4パーセント増、鍼灸1.9パーセント増）と抑制傾向だが、もっと厳しくなることも予想される。それが鍼灸マッサージにも及ぶかどうかは注意して見て行きたい。

（法制局） 免許保有証は当初予想したよりも大きな反響があり、申し込み者が多くなっている。会員全員が申し込んだ県もあり、またこれまでのところ各県会員の7割を越す申し込みとなっている。これを皮切りに無免許者との区別や取締りを厚労省との協議で実現して

行きたい。保有証はその第一歩である。保有証発行という厚労省からの提案に全鍼がどれだけ応えられるかによって全鍼の力を示し、ひいては厚労省へもものを言える。協力をお願いしたい！

（財務局） 来年度はまだ大丈夫と思うが、消費税等の値上がりでやりくりが厳しくなっていて来ている。会費の値上げも視野に入れて考えて行きたい。

質問（福島） 全鍼でレセコンソフトをとという動きがあったが、どうなっているのか？

答え（保険局） 用紙が全国统一でないので難しいかと思っていたが、今後考えて行きたい。国保中央会からは「電子化出来ないか」との話もある。電子化となれば、全鍼で各会員のレセプト代行も可能となる。国保中央会から厚労省にそのように呼びかけてもらうことも視野に入れている。

質問（奈良） 19 条問題について、まずは視覚障害者の生活が成り立つ方策を業界あげて考え、その後 19 条問題について審議すべきと思う。また盲学校教育において中卒でのマッサージ取得という形はなくしてマッサージ免許のレベルアップ化も図るべきと思うが、会長の意見を聞きたい。

答え（会長） 視覚障害者の年収は晴眼者のそれと比べ半分だ。が、「この仕事にやりがいを持っているか」という質問をすると晴盲ともに 7 割の人が「はい」と答えている。それから分かるように、やる気はあるのだから、視覚障害者の成り立つ道を考え、その後 19 条を考えて行くのが筋だ。19 条は廃止しなくても「運用的解釈」という方法もある。マッサージ免許取得条件については質問者とまったく同じ意見を持っている。

3. の議案では、全鍼理事数を 25 名から 20 名に減らすこと、全鍼理事・監事選挙に当たり、透明性を持たせるため選挙管理規定を改正したい。師会長からの意見を参考にしたいので意見を出して欲しいとの会長からの話があり、開票立会人をどうするか、委任状の扱いをどう判断するかなどに各種意見が述べられました。具体案は、来年度の総会で示されることとなります。

4. 各師会からの提案事項では、東鍼連から出された「全鍼理事選挙透明性を求める四つの案」が示され、それぞれに意見が出され、これも来年の総会で示される選挙管理規定変更を生かされることとなりました。

5. その他では、長野県師会が治療費の会員割引を看護協会から自衛隊、そして介護協会にまで広げていることなどが紹介されました。

全国師会長会議は 3 時半に終了となりましたが、その後「政治連盟集会」が開かれました。

杉田委員長は、「免許保有証発行と進むことが出来たのも、二階俊博先生の力添えが大きい。保険もしかりである。東洋療法推進大会の分科会に保険では局長クラスが、また無免許問題では専門官が出席してくれるという破格の計らいがあった。（ちなみに鍼灸師会も全国大会で保険局長クラスの出席を願ったが適わなかった）

私たちはそれらへのお返しとして、来年の参議院選挙で二階派から立つ大江康弘氏の当選に力を注ぎたい。

連盟入会者は少しずつ増えてはいるが、金額は 200 万足らず。他を見ると医師・看護師が年間 10 億、柔整 1 億、PT1,500 万、鍼灸師会が年間 600 万。これに比べ当会は 200 万である。

有効な運動をするためにも会員を増やし資金を確保したい。会員の入会をお願いするとと

もに、全鍼 110 番の還付金を各師会からの寄付として使わせてもらうなどの説明がありました。また、いかに少ない金額で政治家との付き合いを行っているか、自腹を切ることの多いことなどが述べられ、会場からは同情と励ましの声がしきりでした。

政治連盟集会は時間を 15 分オーバーし終了となり、この日の会議一切が終了となりました。二つの会議を通して言えることは、全鍼の役員は会長はじめ厚労省との協議を繰り返している法制局や保険局、事業を推進させている他の理事。多くの人が身銭を切ってまでも頑張っています。多くの人々の免許保有証の申し込み、政治連盟への加入や寄付、私たち会員も出来ることから協力をして行かなければならないと、認識を新たにしたりした 1 日でもありました。

(政治連盟に加入しようとする方は、私の所まで連絡下さい)

皆さんの協力を切にお願いして報告といたします。

東鍼連師会長会議報告

会長 佐々木 実

11 月 15 日、仙台市荒町市民センターで 11 時から 3 時まで東鍼連師会長会議があり出席して参りました。出席者は、各県師会長（福島は代理人）の 6 人で、次期東鍼連開催県青森の事務局長と財務局長は欠席でした。

まず東鍼連秋田大会の総括では、主催者より参加者 82 名であったことが報告され、反省としては、

- ・来賓依頼者の出席率が悪かった（3 名）
- ・会場は出入り口が一つしかなかったので不便であった
- ・主催県持ち出しが 1 万円を少し超えた程度であった
- などの報告がありました。続いて各師会から
- ・講演者の内容が「リウマチについて」ということだったが、「お灸」というテーマに合わせた講演が欲しかった（青森）
- ・マイクのボリュームが低かった。駅にも案内者を配置して欲しかった。二日目講演と観劇に分けたが、終わる時間が違ったのは検討の余地があったのでは？（岩手）
- ・土日開催はよかった（福島）
- ・日陰視されているお灸にスポットを当てたのはよかった（宮城）

続いて来年の青森大会の案内がなされ、日時は 7 月 2 日（土）・3 日（日）、料金フル参加 1 万 7 千円。場所は野辺地町まかど温泉。七戸十和田と野辺地駅から送迎あり。

臨床発表テーマは「頭部」。一日目の講師には「頭痛」に関する話をしてくれる人を選びたい。二日目は、チェアスキーの選手の講演を予定している。

再来年の岩手大会については、代議員総会が 70 回、学術大会が 40 回となるので、功労者表彰を含めた記念大会としたい。

福島県からの提案で、2 年先の大会の臨床発表テーマがあればそれに向けて前年に生涯研修を企画することが出来るという要望に対しては全県が賛成しました。再来年の岩手からは、「既に日にちや場所、テーマ、講演依頼者が決まっている。ただ、テーマを『脳疾患に対する療法』としていたが、来年の青森大会が『頭部』ということでダブル点もあろうかと思うので、1 月の役員会で可否を検討し各県にメールで知らせる」ということとなりました。

「東鍼連にも学術部を設置し、東北全体の学術向上を図っては」という意見が出され、予算付けや方向性を検討し、保険部や組織強化部のように学術担当者を設けて学術部を設置するかどうかを来年の代議員総会に諮ることとなりました。

その他では、保険療養費請求書にマイナンバー記入が義務付けられる、免許保有証とこれからの無免許対策について、柔整マッサージと称して柔整がマッサージをしている件について、PT や OT が介護に乗り出していることや鍼灸マッサージの介護予防参入の可能性についてなどの情報交換をし、定時 3 時には終了しました。

学術部報告

学術部長 佐藤 明

第 1 回生涯研修会報告

平成 27 年度第 1 回目の生涯研修会は、6 月 7 日（日）、初めて利用する南青山の「西部公民館第 1 研修室」において開催されました。スタートして 7 年目を迎えた生涯研修会も、今回で通算 23 回目となりました。参加者は、会員 21 名、付添い 2 名、専門学校 2 名、カナケンさん 2 名、そして、講師を務められた会員 2 名の合計 29 名の参加者がありました。

改めて、参加ご協力いただいた支部長、会員各位に心から感謝申し上げます。

開会式では、前年度の生涯研修単位取得修了者 17 名の紹介を行い、伊藤庸一さんから修了者を代表して挨拶をいただきました。また、今年度入会者 4 名と、専門学校参加者（先生と生徒）を紹介し、挨拶をしてもらいました。

さて、講演の 1 題目は、袖林広正法保険部長による「保険取扱いについて」でありました。昨年度の保険取扱い集計結果の報告、盛岡市から郵送された国保療養費往療料算定表記載方法についての説明、協会健保のレセプト記載例をもとに、クイズ方式で誤っている箇所を見つける勉強など、毎回、新しい工夫が感じられ、とても内容のある充実した講演にいただきました。

続いて、袖林広正法先生には、今年の東鍼連秋田大会学術研究発表の予行練習を兼ねた、「お灸の臨床例」を発表していただきました。電気温灸器を活用し、食あたりに裏内庭穴を用いた症例を発表され、これからの季節に向けて、とても良い内容でした。7 月の本番でも本県代表として頑張っていたいただきたいと思います。発表後、希望者に温灸器の熱感を体験するコーナーも設けていただきました。

講演の 2 題目は、藤田鍼灸マッサージ治療院、藤田茂樹先生によります、「スポーツトレーナー活動の実際とキネシオテーピング法」というテーマの講演と実技でありました。

主に、東京はじめとする大都市部において長年経験を積まれたことや、その道を志したいきさつや体験談をお話しいただきました。ことに、プロスポーツ界における有名選手に対するトレーナー活動とその関わりの様子などは、とても興味を引くお話でもあり、もう少しエピソードをお聞きしたいと思うほどでした。

次に、実技のキネシオテーピング法については、足関節捻挫に的を絞り丁寧に説明と指導をいただき、質問にも熱心に答えていただくなど、集中した内容にいただきました。

私たちは、治療業界に身を置きながら、トレーナー活動の実際を知る機会があまり多くありませんでしたが、改めて認識を新たにすることが出来たのではないのでしょうか。

第 2 回生涯研修会（健康セミナー）報告

毎年恒例となっている、三団体共催による学術研修会が 9 月 13 日（日）、岩手県立盛岡視覚支援学校において開催されました。当会会員は 34 名参加でした。ご協力いただいた、各支部長並びに会員各位に感謝申し上げます。

午前 9 時 30 分から開講式が行われ、主催者を代表して佐々木実県師会会長と視覚支援学校長から挨拶をいただきました。講師は、笹原稔先生（東京都品川区・鍼灸マッサージ・アサヒ治療院院長）でありました。演題は、「血行障害のために生じる慢性痛を取るマッサージ」という講演と実技でありました。

主な内容としては、1. マッサージ業界の現状と課題、2. 医療機関による治療の検証とマッサージ、3. やる気さえあれば、誰にでもできる老化対策、4. 慢性膝関節症のオイルマッサージというものでした。

笹原先生の開発された、コールドクリームを使ったマッサージ法は、いわゆる指の腹で強くこするという強擦法を用いるもので、時には親指の先をかぎ型にして膝関節の関節接合部の圧痛部をはじめ、関節周辺部を左右上下に指でこする方式でありました。

実技では、10 名以上の方が笹原先生の施術を体験されていました。軽症ほど即効性があり、その場で痛みが楽になるなど、参加者から驚きの声が聴かれました。

筋肉よりも腱、腱よりも骨の方に老廃物が溜りやすく痛みが現れやすいそうで、マッサージを用い、溜まった老廃物や浸出液を排出させ取り除くことで、痛みが改善するというものでした。決して揉まないように注意し、強擦法により血液の循環を促し局所の代謝が良くなり痛みが取れるというもので、骨粗しょう症の人にも効果があるということでした。

閉講式では、参加者を代表して村上直人さんが講師へのお礼の言葉を述べて終了となりました。

第 3 回生涯研修会報告

平成 27 年 10 月 4 日、今年度第 3 回目となる生涯研修会がアイーナ 6 階団体活動室 2 において開催されました。会員 23 名の参加者が集まり、全鍼師会理事・健康づくり委員長の長嶺芳文先生を講師にお招きしての研修は、地域健康づくり初回者講習会（5 単位）を兼ねて開催されました。運動指導においても実技体験を中心に大いに盛り上がりを見せた研修会となりました。佐々木実会長の挨拶と長嶺先生のプロフィールの紹介の後、さっそく研修会が始まりました。

午前の部の講演は、「健康づくり施策論」として、平成 27 年度介護保険制度改正のポイントを含めた内容のものでした。それは、これまでの地域健康づくり委員会と講習会実施の経緯、その講習会の研修内容、そして、新しい介護保険制度改正についての国の考え方の説明と、それに伴い今後想定される、鍼灸マッサージ師の関わり方と役割についてでした。

続いて、実技を入れた「高齢者の運動評価」として、介護予防教室の参加対象者向けの事前準備となる、日常生活状態を把握するためのアンケート調査票や基本チェック表、体力測定や健康状態を記入するシートなどの説明がありました。タイムアップ＆ゴー、開眼片脚立ち、握力測定、長座体前屈測定を指導してもらいました。

その後、清水寛平さん、平賀純子さん、佐藤茂さんの 3 人が、代表して指導していただいた測定法をみんなの前で実演しました。

昼食をはさんで、午後の部は、健康づくり運動の実際として、ゼンシン体操のポスターの中にある、経絡テストとストレッチ、チェアエクササイズの実演デモンストレーションでした。

講師は、全鍼師会の講習会において健康づくり指導員の認定修了者となった古水健吾さんと、佐藤明が務めました。

次に、運動指導の実際の講習に入り、グループワークとして 3 班に分け、1 班は 3 分間スピーチの練習、2 班は経絡テストとストレッチの練習、3 班はチェアエクササイズを各自に練習

してもらい、最後に各班を代表して、1班は村上哲也さん、2班は佐藤茂さん、3班は高橋則夫さんが、全員の前でその結果を発表しました。

長峰先生は「人前で話したり、運動指導することは、慣れてくるとどんどんやりたくなる、戸惑うのは最初だけ」と話されておりました。

最後に、東京で開催されている健康づくり講習会と健康づくり認定制度の説明をしていただきました。これは、参加するたびに新しい知識や情報、そして、運動・体操方法を学べることから、皆様には積極的に参加していただきたいと思います。

第4回生涯研修会報告（岩手県視覚障害者関連団体協議会結成記念講演会）

会長 佐々木 実

視福協、当会、盲聾友の会、網膜色素変性症の会、視有協、理教連、全病理、視覚支援学校同窓会などで作る「視覚障害者団体連絡協議会」の結成記念講演会が2月7日（日）、アイーナ8階の会議室で行われました。

講演は、午前10時～11時半までが、名古屋市視覚障害者協会会長でもある田中信明弁護士による、「マッサージ、鍼灸及び障害者差別解消法を取り巻く現状と課題について」という講演。その後は、日盲連鈴木孝幸副会長による「補装具や日常生活用具を利用して生活の質を向上させるために」という講演でした。

一つ目の田中弁護士は無免許問題の日盲連の取り組みを中心に現状と、これからの展望を話されました。全鍼師会系列ではない団体や弁護士さんの話が聞けてとても興味深いものがありました。また、今年4月から始まる「障害者差別解消法」の考え方や、内容も詳しく話され、「視覚障害者にとって大きな一歩」と言われるこの法の意義を感じることが出来ました。

二つ目の視覚障害者にとって必要不可欠な補装具と、日常生活用具の給付については、裏話まで交えてユーモアたっぷりの話に笑いが絶えない楽しい講演でした。

講演の後はマリオスの濱野井に舞台を移し懇親会が行われました。（参加者41名）視覚に障害を持つ各団体が一堂に会して情報交換や共通意識を持てる会を作ったのは、おそらく全国で初めてと思います。

なお、この協議会の会長は及川清隆視福協理事長が、副会長には当会の佐々木実会長と全病理の菊池武彦会長が就任しております。

この記念講演会は、当会では学術研修単位を付与しており、会員27名の出席でした（全体で70名）。

第5回生涯研修会報告

平成28年3月6日、今年度第5回目となる生涯研修会が盛岡市総合福祉センター3階研修室において開催されました。会員32名、付添2名の参加者にお集まりいただき、大いに盛り上がりを見せてくれた研修会となりました。

開講式の後、さっそく研修会が始まり、午前の部の最初の講師には当会会員の花心治療院院長である姜奈希先生による「症状別民間療法」の講話でした。種々の不快な症状や体調不良に対して、天然の植物の根や種、木の実などを原料にして煎じたり、丸薬として摂り入れることで、症状の改善を図る方法を教えていただきました。

姜先生ご出身の韓国に伝わる知恵と療法を明るく元気な口調でお話いただき、用意していただいた植物を実際に手に取って触れたり、味わったりさせてもらいながらのお話は、もっと聞きたいと思うほど楽しい講演となりました。

講演の 2 つ目は、佐々木実会長による全国障害者スポーツ大会和歌山大会視察報告を兼ねた「第 16 回全国障害者スポーツ大会希望郷いわて大会コンディショニングルーム実施要領」と題して、今年秋に本県で開催される大会に向けた準備研修として、その概要をあらかじめ把握しておく必要からお話をいただきました。当会に関わる競技種目は、盛岡市の県営運動公園で行われる「グランドソフトボール」、雫石町営陸上競技場の「アーチェリー」、奥州市総合体育館の「卓球（STT を含む）」の 3 種目です。新年度に向け各支部には全面的なご協力をお願いしたいと締めくくられました。

昼食をはさんで午後の部は、当会業務執行理事の佐藤茂先生による「全国障害者スポーツ大会岩手大会に向けたアイシング・ストレッチ実技」と題して、前段はプロジェクターを使った説明と講話をしてもらいました。

その後、実技のために和室に移動し指導していただきました。まず、ペアを組んで、下肢のストレッチ法を練習しましたが、意外にも正確な動作が出来ないことに気づかされ、大変勉強になりました。

次に、アイシングについてですが、氷嚢を用い、氷と水の配合割合、患部への当て方や固定法などを学びました。

続いて、キネシオテーピングの貼り方の実技に移り、当会業務執行理事の舘下正則先生の指導により、足関節捻挫に対するテーピングを指導していただきました。5 cm 幅のキネシオテープを使い、何名かの方にも貼る練習をしてもらい、それぞれその感触を体験することが出来ました。

閉講式では、佐々木会長から講評と講師の方々へお礼の言葉が述べられ終了しました

今回の生涯研修会は、内容が盛りだくさんだったこともあり時間が足りない位でした。これほど濃密で盛り上がりを見せた研修会はなかったと言ってもいいほどでした。参加ご協力いただいた支部長各位、会員各位に感謝を申し上げます。また、出店のご協力をいただいたカナケンの播磨光明様に対して心から感謝申し上げます。

最後に、反省点として、テーマと実技の内容を考慮して講師担当者を複数にすることや、実技の進め方や時間配分などの打ち合わせをさらに入念にするなど、研修担当者として今後の反省点と課題にしたいと思います。

第 38 回東北鍼灸マッサージ学術大会秋田大会報告

学術部長 佐藤 明

平成 27 年 7 月 4 日（土）、盛岡から秋田新幹線に乗り、好天に恵まれた角館駅に到着。田沢湖芸術村「温泉ゆぽぽ」のマイクロバスに乗り換え会場に到着しました。

午前中に開催された今年度第 1 回東鍼連理事会と、第 68 回通常代議員会に佐々木実会長と共に出席しました。また、保険部長会議には袖林広正法部長、組織強化担当者会議には佐藤茂部長が出席しました。岩手県からは、会員と付き添いを含め 13 名が参加しました。

午後 1 時から開会式が行われ、大会テーマは“いいっすなあ！東北の仲間達”というものでした。白田栄二東鍼連会長や仙北市市長のメッセージ、地元議員の挨拶や祝電の紹介があり、会場に集まった参加約 80 名の東鍼連会員から盛大な拍手が送られました。

今年の学術研究発表のテーマは、「灸治療による疾患改善例」でした。各県代表 6 名による臨床研究発表が行われました。岩手県師会からは袖林広正法先生の「食あたりと風邪の灸療法」の発表でありました。鍼と灸、そして電気温灸器を使用した臨床例 2 例について、ユー

モアを交えた内容でした。会場の聴衆も大いに参考になったであろうと思われます。

発表後、感謝状と記念品の贈呈が行われました。

続いて、学術特別講演「関節リウマチと識別について」という演題で、地元秋田大学医学部准教授小松田敦先生によるお話で、一般公開講座として開かれました。医学知識と教養を高める講話として、大変興味深く拝聴させていただきました。

次は、毎年恒例の全鍼師会会長の特別講演で、3年ぶりに杉田久雄会長が出席してくださいました。演題は、恒例の「鍼灸マッサージ業界のこれから」でした。

夜の部の懇親会では、酒どころ秋田ならではの日本酒の鏡割りからスタートしました。オープニングアトラクションでは、わらび座の劇団員による、太鼓に合わせた歌と踊りと民謡のひと時を堪能しました。そして元気よく恒例のカラオケへと続き盛り上がりを見せました。

大会二日目は、秋田ならではの劇団わらび座観劇コースという企画もあり、当会からは3名の方が観劇しました（全体で7名）。

9時からの研修講演は、福島県師会会長の平栗辰也先生による「160日間の入院体験から学んだ地域包括ケアシステムでの鍼灸マッサージ師の役割について」というテーマで講演をいただきました。ご自身の交通事故体験を通した、場面場面での思いを克明にお話しいただきました。先生の明るい前向きな性格が、功を奏したようで、充実した入院生活を送った様子を、笑いをいれながら、お話してくださいました。レクリエーション実技を交えた楽しい講演時間は、たちまち過ぎてしまいました。

大会の最後に、代議員会報告があり、今後の検討課題として、北海道師会との交流を拡げる方向で協議を進めて行くことになりました。保険担当者会の報告では、保険部会長が伊藤欣也氏（山形）に交代したことが報告されました。組織強化担当者会報告は10月に開催される青森交流会についてなどの説明がされました。

そして、来年の青森大会は、野辺地まかど温泉を会場に、学術発表テーマ「頭痛」。開催期日は、7月2・3日（土・日）とすることが、笹川隆人会長より報告がありました。

事業部報告

事業部長 館下 正則

平成27年度各支部マッサージボランティア報告

支部名	月 日	場 所	担当者数	施術者数
二戸	11月27日	わくわく荘	3	16
大船渡	9月6日	松風苑	7	46
盛岡	11月15日	西厨川老人福祉センター	7	11
一関	5月17日	関生園、福光園、ケアサポートセンター	7	36
一関	7月12日	関生園福光園、ケアサポートセンター	7	20
県、一関	9月27日	第34回一関国際ハーフマラソン大会	12	100
合計	6日	6カ所	46	229

平成 27 年度釜石小川地区高齢者サポートセンター 鍼、灸、マッサージボランティア報告

月 日	担当人数	施術人数	月 日	担当人数	施術人数
4 月 12 日	2	10	10 月 25 日	2	12
4 月 26 日	2	9	11 月 15 日	2	10
5 月 17 日	2	11	11 月 22 日	2	12
5 月 24 日	2	12	12 月 6 日	2	10
6 月 7 日	2	12	12 月 20 日	2	10
6 月 28 日	2	11	平成 28 年		
7 月 5 日	2	10	1 月 10 日	2	10
7 月 19 日	2	11	1 月 17 日	2	10
8 月 2 日	2	11	1 月 31 日	2	10
8 月 16 日	2	11	2 月 14 日	2	9
8 月 16 日	2	11	2 月 28 日	2	10
8 月 30 日	2	12	3 月 6 日	2	10
9 月 13 日	2	12	3 月 27 日	2	10
9 月 27 日	2	10	合計 26 回	52	276
10 月 11 日	2	12			

保険部報告

保険部長 袖林 広正法

1. アンケート調査の実施報告

岩手県	27,936,938 円	1,769 件
鍼灸	3,411,964 円	965 件
マッサージ	24,524,974 円	804 件
盛岡支部	10,892,456 円	1,613 件
鍼灸	2,148,316 円	909 件
マッサージ	8,744,140 円	704 件
一関支部	10,828,841 円	59 件
鍼灸	40,000 円	4 件
マッサージ	10,788,841 円	55 件
大船渡支部	2,182,491 円	14 件
鍼灸	74,998 円	2 件
マッサージ	2,107,493 円	12 件
遠野支部	3,907,650 円	73 件
鍼灸	1,148,650 円	50 件
マッサージ	2,759,000 円	23 件
奥州支部	125,500 円	10 件

鍼灸 無し

マッサージ 125,500 円 10 件

2. 6月7日、第1回生涯研修にて保険の取り扱い報告

(盛岡、西部公民館にて)

アンケート報告、保険療養費支給申請書往療料算定表、レセプトクイズ、質疑応答などを行いました。

3. 東鍼連秋田大会保険部長会議報告

(7月5日秋田県田沢湖町ゆぽぽにて)

保険取扱いは、各県衰退傾向にあります。

東鍼連保険部長ミーリングの構築案ができました。

4. 東鍼連保険部長会議(山形)の報告

(10月31日山形県天童市ホテル王将にて)

秋田県にて保険往療詐欺事件発生。往療内訳書の義務化の徹底(東鍼連で新しい何かを作ろうという話でした)

レセプト発行ソフト「発揮君」のマニュアルが山形で作成され、県師会文庫のリストに登録されました。

5. 東北保険部長ミーリングの構築報告

現在保険部長ミーリングは健全に動いています。

参加メンバー、各六県の保険部長、オブザーバー

山形の白田先生、原田先生の8人で運用しています。

保険の事で、聞きたい事があれば投稿いたします。

6. 後記

保険取扱いが厳しくなっており大変ではありますが、がんばって取り組んで参ります。

組織強化部報告

組織強化部長 佐藤 茂

1. 東鍼連組織強化部報告

平成27年7月4日、東鍼連秋田大会に参加し、組織強化会議にて各県の情勢や、組織強化の今後のありかた等について議論が交わされました。

今年は北海道師会の函館支部からの参加もあり、その際東北のまとまりの良さを褒められました。北海道は個人主義的で、あまりまとまりない、とのことでした。

次に交流会について話題が出され、本年は青森の五所川原にて開催すると開催県の青森県師会より発表されました。

2. 青森交流会報告

10月10・11日に青森の五所川原にて開催され、岩手県師会からは私佐藤茂と、伊藤庸一氏の2名が参加いたしました。私は初日のみの参加でしたが、いい天気で出かけるには最高の日でした。車で五所川原の集合場所のホテルに向かい、弘前のパーキングエリアで昼食を済まそうと食堂へ入ったら宮城の参加者と出会いましたが、皆さん食後のようでしたので結局一人寂しくラーメンをいただきました。

現地ではすでに山形県師会の先生方が到着されており、歓談中でしたが、やがて皆さんそろったので、青森師会の案内の元太宰治の実家である斜陽館に出発しました。移動は青

森の先生方が車を出してくださり、助かりました。

斜陽館は非常に立派な建物で、現在に換算すると建築費はおよそ7億円ぐらいだそうです。維持費も相当なものになりそうです。ガイドさんの案内で館内を廻り、その後は津軽三味線の生演奏を聴きました。私達も三味線を弾く体験をしましたが、なかなか難しかったです。料亭で聴こえてきそうなお上品な三味線より津軽三味線の激しい音色の方が私は好きですが、あの技法は昔からあったものではなく、日本が近代になってから現れたものであることを津軽三味線の資料館で知り、『型破り』の天才はどの世界でも必ず現れるものと感じました。

その後はホテルに戻り皆さんお楽しみの懇親会です。私は翌日東京に行く予定がありましたが、懇親会まで出て、新青森から翌日東京に向かおうと思っていたのですが、五所川原から新青森までの電車の便が悪く、懇親会を途中で退席しなくてはなりません。それなら懇親会には出ず帰った方が良いと判断し、泣く泣く帰路に着きました。

翌日はもちろん参加していませんが予定通りであれば、寺内先生の施設を見学し、笹川先生の講習会と佞武多の資料館を見学して解散したものと思われます。

今回の参加人数は30名以上と、過去稀に見ない参加人数でした。来年は岩手県師会が担当するわけですが、平泉・毛越寺観光と猊鼻溪舟下りを予定しております。

皆さんふるってご参加下さいますよう紙面よりお願いいたします。

介護予防事業推進委員会報告

委員長 古水 健吾

1. 第16回勉強会と委員会会議開催

日時：平成27年6月7日（日）15時30分～17時

場所：西部公民館2階・第1研修室 参加者6名

議題：(1) 大船渡市被災地仮設住宅「健康体操教室とマッサージ」ボランティア
(2) 貯筋運動（健康づくり・介護予防）教室

2. 第17回勉強会（貯筋運動教室リハーサル）開催

日時：平成27年8月2日（日）15時～17時

場所：アイーナ5階ミーティングルーム 参加者7名

議題：(1) 大船渡市被災地仮設住宅「健康体操教室とマッサージ」ボランティア報告
(2) 貯筋運動（健康づくり・介護予防）教室実施要項説明とリハーサル

3. 貯筋運動（健康づくり・介護予防）教室開催

期日：平成27年9月16日～11月25日、14時～16時、全8回

場所：西厨川老人福祉センター2階和室

参加者：延べ43名

受講者：実質20名（女性15名・男性5名）、延べ96名

4. 第18回勉強会開催

日時：平成27年12月6日（日）16時～20時 参加者6名

内容：貯筋運動教室反省会

5. 平成27年度第2回委員会会議開催

日時：平成28年3月6日（日）15時30分～17時

場所：盛岡市総合福祉センター3 階研修室 参加者 8 名

内容：(1) 平成 27 年度活動報告と会計報告

(2) 平成 28 年度活動計画と会計予算案

6. 古水健吾委員長、陸前高田市での活動報告

7 月 7 日午前：広田町田端公民館、午後：広田町中沢浜青少年会館

7 月 16 日午前：小友町松山会館、午後：気仙町二日市公民館

8 月 21 日午前：広田町喜多公民館

8 月 25 日午前：矢作町生出地区コミュニティーセンター

9 月 11 日午後：陸前高田市役所

2 月 2 日午前：横田町 2 区公民館、午後：横田町 8 区公民館

和歌山、紀の国障害者スポーツ大会視察報告

会長 佐々木 実

岩手県の障害者国体事務局から、平成 28 年に行われる岩手障害者国体の選手コンディショニンググループを当会と作業療法師会、理学療法師会、柔整師会、鍼灸師会で担当して欲しいと打診があったのが今年の 2 月でした。

それから何度かの打ち合わせを経て、当会は盛岡で行われるグランドソフトボールと雫石でのアーチェリー、奥州での STT を含む卓球と車椅子バスケット競技会場での選手のケアを担当することとなりました。

そしてこのたび、私が代表で和歌山障害者国体を視察することとなりました。二泊三日の視察予定を立て、3 ヶ月前の 7 月に宿を探したにもかかわらず、和歌山市内は国体景気で既にいっぱい。空いている所は、古い相部屋旅館か、べらぼうに高い高級ホテル。仕方がないので隣りの大阪天王寺に宿を取り、往復 2 時間半かけて 2 日間和歌山市や紀の川市の会場まで通うことに。

さて、大会は 10 月 24 日から 26 日までの 3 日間行われましたが、私は 24 日と 25 日の日、主に当会が担当予定の競技や同種業界担当のコンディショニンググループを視察させていただきました。

24 日午後に尋ねた紀の川市粉河運動場での知的障害のフットベースボール、ソフトボールのコンディショニンググループでは全和歌山鍼灸マッサージ師会の皆さんがボランティアを行っていました。

紀の川河川敷に設置したテントに 3 台のベッドを配置し、それぞれの間を衝立で区切り鍼やマッサージをしていました。責任者の能澤先生から説明をしていただき、写真を撮らせてもらったり、受付表や問診票用紙を参考にいただきました。

次はタクシーで 15 分ほどの打田若者広場で行われているグランドソフトボール。柔整師会担当ということで視察は簡単に済ませようとしたのですが、話がはずみ気がついたら終了時間の 4 時を過ぎていました。

翌 25 日は、和歌山市にあるビッグアイ、ビッグホエール、ビッグウェーブという体育館を持つ総合体育館に行きました。ここでは車椅子バスケット、STT を含む卓球が行われ、ここのコンディショニンググループは和歌山県鍼灸マッサージ師会の皆さんが担当しておられました。

前もって連絡していたこともあって責任者の橋詰、宮本両先生が懇切丁寧に対応してくださいました。施術に使う枕カバー、バスタオル、フェイスタオル、ディスポシン、消毒薬、

それらを置くワゴン、4 台のベッド、衝立等々つぶさに触れさせ説明をしてくれました。

1 人 15 分の施術で、昼休みなしで 9 時から 4 時までというのは大変な作業です。

コンディショニング関係資料も沢山いただき、最後に和歌山の特産みかんジュース「JOIN ジュース」をご馳走になって会場を後にしました。

和歌山の人たちは皆親切で気さくな人たちでした。天気にも恵まれ、とても居心地が良かったという印象です。ただ一つ驚いたのは、岩手から行った人間には暑過ぎること。日中の気温が 25 度にもなるのです。それでも向こうの人たちは平気で長袖シャツ。朝夕はダウンジャケット。13 度もあるのに「寒い」と言う。極め付けは、25 日の朝、JR 和歌山駅にはマフラーをした人が…！

これで和歌山障害者国体の視察は終わりとし、私はその日の午後から名古屋で行われる東洋療法大会 in 愛知に参加すべく和歌山駅から「特急、くろしお」に乗り込みました。

東洋療法推進大会参加報告

会長 佐々木 実

今年の東洋療法推進大会は、10 月 25 日、26 日の両日、名古屋の「ホテル・メルパルク」を会場に行われました。大会内容は以下の通りです。

・ 10 月 25 日（日）

12 時 ～12 時 30 分 第 1 部 開会式

12 時 40 分～14 時 10 分 第 2 部

分科会 1 【招待講演】外治と内治による妊孕性を上げる
～鍼灸治療と食改善による後天の精向上～

分科会 2 ベビーマッサージの安全指針

分科会 3 【合同シンポジウム】在宅医療・介護・総合支援事業の現状
～今後の方向性を検討する～

14 時 20 分～15 時 50 分 第 3 部

分科会 4 【学術講演】刺鍼基本テクニック～緊張型頭痛～

分科会 5 無免許者との差別化方策の方向性

分科会 6 オリンピック・パラリンピックを視野に入れた師会の取り組み方

16 時 ～17 時 30 分 第 4 部

【特別講演】いつやるか？ 今でしょ！ 林 修先生

18 時 30 分～20 時 30 分 懇親会

・ 10 月 26 日（月）

9 時 ～10 時 30 分 第 5 部

分科会 7 治療院経営セミナー～勝ち組になれる 10 の考え方～

分科会 8 医療機器の扱いについて臨床現場からの提言

分科会 9 臨床発表(会員発表)

10 時 40 分～12 時 10 分 第 6 部

分科会 10 社会保障制度の行方とあん摩マッサージ指圧・はり・きゅう療養費

分科会 11 地域包括ケアの新総合事業に専門職として関わるには

分科会 12 臨床発表(会員発表)

12 時 20 分～13 時 第 7 部

分科会報告／閉会式

私は 24 日から 25 日午前にかけて和歌山障害者国体の視察をしていたので、大会には少し遅れて第 3 部からの出席となりました。また今年度から私は全鍼視覚障害局の委員を勤めさせていただくこととなり、微力ながら実行委員の一人としての参加でもありました。

今大会で私が特に印象に残ったことを簡単に記します。

「分科会 5 無免許者との差別化方策の方向性」では、昨年に続き厚労省の専門官を招いて質問や提言がなされました。

「免許保有証発行は無免許問題の根本的解決にはならない」

「厚労省は免許者ばかり取り締まり、無免許者はさっぱり取り締まらない」

「保有証発行後、厚労省は私たちに何をしてくれるのか、何をしようとしているのか見えない」

など、辛口の質問も出されました。

「とどのつまりは、国民が免許者を選ぶか、無免許者を選ぶかだ。そのためには技術を磨かなければならない」

「例の昭和 35 年最高裁判決が取り締まりのネックになっている。が、法改正や裁判には多くの金と時間がかかるので、まずは厚労省が全国に発している「無免許との差別化通達」を根拠に各県で保健所や警察署に相談することが大切だ」等々多くの意見が出されました。

【特別講演】「いつやるか？ 今でしょ！」林修先生—では、「私は先を見通すということ」を最も大事にしている。私には『こんなはずではなかった』という言葉は存在しない。その分析のために時間を費やすから、友達とだべったり飲んだりは無駄なこと。自分には家族と仕事だけが大事で、友達などは一人もいない」など林修独自論をぶち上げました。

まさに理数系人間。話の内容には共感する所もあり、おもしろい講演でした。

26 日の「分科会 8 医療機器の扱いについて臨床現場からの提言」では、視覚障害局が主催となり、カナケンや伊藤超短波、全鍼協同組合の出席を求め、視覚障害者が使いやすい器具の開発について話し合われました。私もパネラーとして多くのことを提言させていただきました。

「機械操作がタッチパネル式の物が多くなっている。突点などを付けて触って分かるようにして欲しい」

「取扱説明書をデータで提供して欲しい」

「関節角度計には触わって分かる刻みがあれば良い。電子角度計は出来ないのか？」などの要望が出され、業者側は、

「要望に応えることは難しくはない。ただ、コストの問題で、採算が取れない物には取り組めない」

「角度計に点字シールを貼るとかの個別的要望には応えていきたい」

「取扱説明書データ提供は、申し込みがあれば可能なので応えていきたい」。

また話は多岐にわたり、鍼の使い勝手や品質について、手指消毒法、医療過誤についてなど時間いっぱい話し合われました。

一つ一つ列挙していれば紙面がいくらあっても足りませんので報告はこの程度としますが、二日間とも良い天気にも恵まれ、出席者も昨年をはるかに超える延べ 1,600 人と大盛況な大会でした。来年は第 15 回と記念大会です。9 月に東京で行われますので、皆さんも参加してみてください。

東鍼連青森交流会に参加して

一関支部 伊藤 庸一

汗ばむほどの好天に恵まれた五所川原で10月10日（土）、11日（日）の両日に開催された交流会は、施設見学、講演、観光など多岐にわたり、しかも研修よりも観光中心に構成されており、参加されなかった方々には大変残念なくらい本当に楽しい時間を過ごしてまいりました。東北各県から30名という近年にない多くの参加という盛りあがり、岩手からは佐藤茂部長とともに参加し親睦を深めてまいりましたので、その一端を報告いたします。

10日（土）列車利用の人は12時40分新青森駅に集合、迎えに来ていただいた青森県師会の先生方の車に分乗、岩木山を左に見ながら移動すること50分、宿泊地の「パークインホテル五所川原エルムシティ」に到着。そこで車利用の人たちと合流し、最初の見学地である金木町に向かいました。

訪れたのは作家・太宰治の生家で太宰治記念館「斜陽館」です。（平成16年12月10日、国重要文化財に指定）大地主だった太宰の父、津島家6代当主・源右衛門が金融業店舗を兼ねた住宅として、明治40年に建てたものだそうです。680坪の宅地に米蔵、中の蔵、文庫蔵や泉水を配した庭園もあり、一階278坪（11室）、二階116坪（8室）の入母屋造りの建物で執務室にあった大きな頑丈な金庫、仏間にあった神々しい金箔の仏壇（現在なら1千万以上するそうです）、大きなシャンデリア等々、現在のお金に換算すると7億円に相当する豪邸であり当時の隆盛が偲ばれ、今でも多くの太宰のファンが全国から訪れています。

次に「斜陽館」から100mくらいのところにある「津軽三味線会館」に足を運びました。金木町は、太棹で撥を叩くように弾く津軽三味線の発祥の地だそうです。「仁太坊」（1857年7月7日生まれで、8歳の時痘瘡がもとで失明）を元祖として受け継がれてきており毎年、全国大会が開かれているそうです。会館内を見学したあとは、国内外で活躍されているというプロ奏者による生演奏を堪能しました。目の前で弾く迫力ある演奏は魂にも響くという感動を与えてくれました。

「ステージの前に集まってください」という係の人の声。全員に三味線が渡され（2班に分かれての体験演奏で。プロによる褒め上手な指導を受けると皆名手、気分は一流…？15分後には一糸乱れぬ演奏（これが難しい）で会場を沸かせる。興奮の余韻を残しながら会館を後にしてホテルに戻りました。

18時30分、ホテル内レストランにおいて夕食、懇親会が笹川 隆人青森県師会会長の歓迎のあいさつで始まりしました。和気あいあいで話が弾み、あっという間の2時間が過ぎてしまいました。

「2次会の会場に移ります」ほとんどの人が参加し、タクシーで移動すること5分。ネオンきらめく一角にある店に入りました。居酒屋風のカラオケ店と思いきやそこはスコップ三味線家元、舘岡屏風山さんのお店でした。全国を飛び回っている家元ですが、たまたま本人がおられ吉幾三、井上陽水の歌やベンチャーズの曲に合わせた迫力あるスコップ三味線の演奏と、ユーモアたっぷりのトークに手拍子と笑いが止みませんでした。「スコップ三味線は見ても面白さは半分しかわからない。だから、やってみる。これまで、ここで演奏した人で失敗した人は一人もいない。好き勝手に弾いていいんです」家元の言葉に皆、自信を持ってスコップを叩き始めました。誰一人失敗することなく2曲演奏。「ストレス解消に最高だ」と誰かが言っていましたが、本当にスカッとしました。

その後、のど自慢カラオケ大会に移り最後に、「津軽スコップ三味線奏者体験認定証」とス

コップに貼ると楽器に早変わりするというステッカーを贈呈され、大満足でホテルに戻ったのは10時を過ぎてからでした。

1日(日)は遅めの朝食をとり、9時に再び車に分乗しホテルを出ました。移動すること10分、今回の交流会で唯一の研修である青森県師会副会長の寺内雄一先生が開設している「リハビリ堂・やすらぎデイサービスセンター」に到着です。先生の説明を受けながら施設内を見学。ここでは、マッサージと機能訓練を中心にして実施しており、送迎、入浴、食事も提供しているということでした。リハビリに特化して行っているデイサービスは少ないため、大変評判が良く、待機されている方が多くいるとのことでした。器具、機械を使うだけでなく、タオルやゴムボールなど身近にあるものを使い簡単にできる機能訓練を取り入れており、私たち治療院でも治療、予防に取り入れられるもので大変参考になるものでした。

次に青森県師会会長の笹川隆人先生による「東京オリンピックの鍼灸・マッサージ師のトレーナーの役割」と題して講演がありました。「我々の活躍できる選択肢は多くなっているが、しっかりと知識と技術を持って対応していかななくてはならない。トレーナーとして同行する場合は、それに見合う報酬を得るようにならなければならない、いつまでもボランティアだけではあってはならない」

先生は、以前からいろいろな競技のトレーナーとして活躍されており、国家資格免許を持ち医療の一翼を担っているという自負のもと、目線を一つ高い所においての話でありました。

二日間の締めくくりは、デイサービスから歩いて5分のところにある「立佞武多の館」の見学でありました。「青森ねぶた」「弘前ねぶた」と並び、青森三大ねぶたと称される「五所川原ねぶた」は、明治時代にその高さの隆盛を極めていましたが、電線の普及とともに背の低いねぶたとなったそうです。1996年に当時の写真と台座の図面が出てきたのをきっかけに高さ22メートルの巨大ねぶたを復元し「立ちねぶた」と命名し、1998年より祭りの名を「五所川原立佞武多」(ごしょがわらたちねぶた)として約90年ぶりに復活させました。現在、高さ約23メートル、重さ約19トンのねぶたを含め3台を常設展示しており、祭りの時は展示しているこの施設からそのまま出入りするので展示室の壁の一部が可動式となっているということでした。電柱も今は地下に埋設され、毎年8月4日から8日まで7階建てに相当する大型のものから、中型、小型のものを合わせ色艶やかな姿は多くの観光客を魅了しています。展示室は1階から4階まで吹き抜け空間であり、私たちは最初にエレベーターで4階にあがり、ねぶたを見ながら展示室外周を回るスロープで1階まで下りました。3階にはねぶた制作現場があり、見学や製作体験ができ、この日も多くの観光客で賑わっておりました。

見学を終えた私たちは6階の展望ラウンジに移動し、市内を一望できるレストラン「春楡」(はるにれ)において少し早めの昼食(遅めの朝食だったので、昼は軽くともが思っていたようでしたが、すでに地元食材を用いた豪華な会席膳が準備されていた)を、和やかな雰囲気の中でいただくことができました。席上笹川会長から交流会の全日程を無事終了できたことに対するお礼の言葉がありました。

再びデイサービスに戻り、佐藤ブロック長より「来年岩手で会いましょう」の言葉をもって交流会は終了となりました。

電車で帰る人たちは、そこからまた青森県師会員の自家用車で新青森駅まで送ってもらいました。最後までおもてなしの心を感じた楽しい交流会でありました。

「お灸について」

袖林 広正法

目的

視覚障害者であっても、保険診療の制度上で実践できる、お灸の実際をとりあげます。
内容は日々私の治療室で実践していることとお話します。

方法

総論

基本は健康保険、すなわち鍼灸 2 術に電気治療を付加して、保険診療の上での臨床の実際です。

電子温灸器を治療に取り入れて艾と併用して治療効果をねらいます。

電子温灸器は、バンシンおよびEQというのを用品です。

お灸は点灸以外に、温灸、知熱灸、ダルマ（カナケン製）棒灸などを用います。

各論、風邪（ドイツの多壯灸）、食あたり（ウラナイテイ）の灸をとりあげる。

結果

鍼とお灸と電気温灸器の併用で治療効果をねらい、保険者から、同意医師や患者に「お尋ね」が来ても抜かりが無い治療法で患者さんの健康を保っている。

考察

今回はバンシンやEQではあるが、ほかにもっとよい器具があれば、試していきたいと思う。

結語

私の治療室の話が、一つでも皆様の明日からの臨床の役立てば幸いです。

症例 1 食あたりの裏内庭

25 歳 男性 農業とアルバイトをしています。

普段は腰が痛くて来院しています。平成 25 年ごろ、腰椎椎間板ヘルニアになり、急性期が終わってから、鍼をしに来院するようになりました。

現在は大分落ち着き、無理をしたりすると、腰が痛くなり治るまで鍼をして、しばらくするとまたくるという感じです。

さて、この春もまた痛くなり同意書を腰痛でもらって保険診療が始まりました。

腰痛のほうは中腰になると痛くなるようで、ジンユ、シシツ、ヨウガン、ヨウユ、ヨウカンに鍼やお灸をすればいいと治療方針を定め、食欲、便通、小用、睡眠をきくと、「今朝、三日前にいわて生協で買った刺身を忘れていて食ったらげっぷがたくさん出るし、おなかが痛い」というので、

「よし、裏内庭で勝負だ。これがうまくいけば東鍼連秋田大会の会場ゆぽぽで発表できる」と思い、腰などはEQで済ませ、裏内庭には、点灸でいくことに決めました。

まずは両測のツボをとりマジックで印をつけました。

取穴方法は、足の人差し指を足底部に曲げてくっ付け、指腹の当たったところです。

療法は、左のみ、右のみ、両方。弱でやったところ効きませんでした。そこでバンシンの

強でテストし、両側取穴としました。

施灸は最初はゴマ大、次は米大、次は麦大、小豆大、大豆大ぐらいになったら、「あつつ」といわれたのでそれで良しとし、自宅でもやってもらうために、本人に施灸の練習をさせました。

その日は家で、午後と寝る前にするよう促し、治療を終えました。

翌日様子を聞くと、昨日午後から嘔吐下痢がはじまり、夜寝るまで一時間おきに自宅灸をしたとのことでした。

寝るころは胃のあたりにむかむか感があったそうです。

この日も同様に裏内庭を治療点に自宅灸を指示しました。自宅灸は午後と寝る前の二回です。

三日目はきれいさっぱり治ってしまいました。予後は良です。

考察

刺身はカジキマグロの切り身で、中ぐらいの物を 1 パック食べたようです。匂いも少しあったそうですが、もったいないので食べてしまったとのことでした。

実は、私事ですが開業したてのころ、悪くなりかけた秋刀魚の刺身を食べて、おなかが痛くなったことがあります。死ぬほど苦しく、裏内庭で勝負した経験が役立ちました。習ったときは一日 3 回と言われたのですが、どうにもこうにも早く治りたいから、一時間おきに治るまでやったことが、思い出されました。

もし、点灸ができない場合は、バンシンまたは、EQ でもできます。

接地面を少しづつずらして、熱感が通るまでやればいいのです。

ただし、点灸のほうが効きは強力だと思います。

みなさまの身の回りで、「食あたり」をみかけたら試してみてください。但し、食中毒の場合は命にかかわることも多いので、ひどい場合は病院で処置をしてもらい、その後に施灸をすると良いと思います。

症例 2 節々の痛く熱のある風邪

60 歳 男 社長さん

鼻がグスグスいっているので、「風邪ですか？」とききました。

「今朝起きたときから、おかしくなった」と言うので、「熱はあるか?」、「寒気はあるか?」、「のどは痛い?」、「節々が痛い?」等と聞いてみました。

まとめると、節々痛い、寒気はしない、熱 37 度 5 分、鼻がぐしゅぐしゅ、でした。

治療法は肺墟陽実証、タイエン、タイハクを補い、ショウヨウから、シラク。

風門に寫的散鍼のちに、大椎に寫的多壯灸（知熱灸）で閉めるということにしました。

さて、今回のテーマはお灸なので大椎のことに的をしぼります。

井上恵理考案の知熱灸は、1 と 7 と 15 と 31 が寫的です。間は全部捕的です。ですので、7 か 15 か、はたまた 31 かと言う感じで見立てました。

で、7 壮では、発赤が乏しく、15 壮を行い、脈が開いていないことを確認し、治療を終了しました。

社長さんは、ベッドからおきると、大量に鼻をかみました。「具合どうですか?」ときくと、「すごく楽になった」といいました。

大椎寫的多壯灸大成功。

各支部報告

二戸支部

広報担当 古舘 吉弘

平成 28 年が明けて早 2 か月が過ぎようとしております。

皆様におかれては、どんな年の幕開けだったでしょうか。

さて、年明け早々から株価が乱高下しました。なんだか今年の経済の行方が心配になってきました。今まで多少なりとも回復しつつあった景気でしたが、世界的に不安定になってきました。私達はあまり恩恵をうけてはいませんでした。田舎で暮らすものにとっては、益々景気が悪くなるのではと不安です

昨年も様々な事件や災害などがありました。

今年はあまり大きなことがありませんようにと願うばかりです。

さて、二戸支部では昨年 3 月で一人退会しましたし、もう一人は体調を崩され休んでおります。その他の会員は何とか元気にはしております。

しかし、今年も一人退会する予定ですし、二人は高齢会員となります。

まさか、二戸支部から高齢会員が出るとは思ってもいませんでした。やはりこれも時の流れですね。

次に活動報告を記します。4 月 11 日に定時総会を開催しました。

また、11 月 27 日には「わくわく荘」においてマッサージ奉仕活動を行いました。

このように人員不足から、かつてのように多くの事業はできなくなりました。

今後もどうなるかはわかりませんが、できる限りやっていければと思っております。

最後に、今年も会員の皆様にとって良い年でありますよう。

盛岡支部

総務部 中渡 智彦

皆さんこんにちは。この冬は平年並みの寒さと予想されていましたが、最低気温がマイナス 10 度を超えることもなく、雪が降ってもすぐに融けて、過ごしやすい冬でした。テレビで話題になっていましたが、年が明けても盛岡では 1 日も真冬日が観測されていないとか！

これだけ温かいと、この夏の天候がどうなるか気になります。

会員動向ですが、入会者は、井出裕貴（いでやすたか）さん、高橋康浩（たかはしやすひろ）さん、菅原智顕（すがわらともあき）さんの 3 名です。

退会される方は、盛内克則さん、盛内優子さん、道上良子さん、中渡智彦の 4 名が年度末で退会いたしました。

また、平成 27 年度は、4 月からマッサージ指導教室が新体制でスタートしました。それに伴い指導員も増員されました。市内 4 か所の老人福祉センターを会場に、2 時間枠の中で健康講話や体操を行い、後半の方で利用者さんにマッサージを 10 分程施術しています。当初は慣れないこともあり、お互いに、やや戸惑いがあったものの、回を重ねるにつれ、教室の主旨も理解されて、徐々に利用者数も増えてきました。

平成 28 年度は、開催回数は少し減りますが、会場が 10 か所に増えて、より広範囲に活動を展開し、多くの皆さんに体操とマッサージの効果を知ってもらう機会になればと思っています。

ます。盛岡在住の支部会員で、是非この事業に協力したい方は支部長まで申し出てください。
次に、活動日誌です。

4月12日 定期総会。

9月27日 一関国際ハーフマラソンマッサージボランティア。

11月15日 西厨川老人福祉センターでマッサージボランティア。7人で11名施術。

12月12日 忘年会。

他に、4回の役員会、研修会や東鍼連へ参加しました。

また、釜石で行われているマッサージボランティアにも参加しています。

盛岡市の委託事業である、健康づくりマッサージ等指導教室は年間100回実施され、1か月平均134名施術しました。

支部会員は61名となり研修会への参加は増えてはおりますが、まだ1度も参加したことのない方々もいますので、28年度は会員の皆様の一層のご協力をお願いして報告といたします。

奥州支部

副師会長 小野田サヨ子

世の中は大荒れのようにですが、幸か不幸か、当支部は波静かに平凡に一年を過ごしました。唯一つ、言うとすれば、3年前の当支部百周年記念式典に、百歳で出席して頂いた元会員の、佐藤種二さんが、昨年満百二歳の長寿を全うされてお亡くなりになったことです。当支部の大長老として、長らく私達後輩に、元気のエールをお送りして下さっていた方なので、感無量でした。一時代が過ぎ去った感があります。

さて本年は如何なる一年になりますことか。

以下、本会の日誌です。

平成27年

4月12日 定期総会

8月9日 第一回役員会

12月12日 第二回役員会

平成28年

1月24日 新年会

3月6日 第三回役員会

宮古支部

支部長 上館 宏

2015年度も宮古支部としての特別な活動はございませんでした。震災後5年となり、岩泉町沿岸部の当治療院の利用者様も、新居完成等の嬉しいニュースもありました。

私事で恐縮ですが、開業して自費治療のみで理療経営に臨み、軌道に乗せていくために邁進してまいりました。

佐々木実会長はじめ、先輩会員の先生方のご助言を賜り感謝申し上げます。

そんな中思うのですが、日本は二極化が顕著になり、ある統計調査ではアメリカ以上の格差社会となっているようです。

当業界に目を向けますと、県民の大多数は経済政策の恩恵を享受出来ず、自費で鍼灸按摩マッサージ治療をうけることも躊躇しています。(理由はこれだけではなく無免許の類似業者

の乱立、接客や雰囲気はむしろそちらが良いという方もいるようですが・・・。）

年金生活者の方も例外ではありません。片麻痺や関節リウマチ等の方々も医療保険の同意書がもらえず、思うように治療を受けることができませんでした。あまりにも優しくない政治、行政を実感する毎日ですが…、日々自分の出来ることを行い、求められることに対し応えて結果を出しながら、皆さんのお役に立てるよう、微力ですがお手伝いをして参ります。

県師会の先生方、本年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

遠野支部

支部長 朝橋 正美

遠野支部としては1年間、特に活動は行いませんでしたが、私は個人的に県師会で行っている釜石でのボランティア活動に参加しております。震災から5年、そして釜石の小川サポートセンターでのボランティア活動は、3年が経ちました。仮設住宅で暮らしている人達は、まだまだ不自由な生活をしています。最初の頃は関節の痛み（首・肩・腰・膝）等でしたが、最近では精神的な症状（睡眠障害・食欲不振・手足の冷え・ほてり・だるさ等）を、訴える人が増えています。

関節の痛み等は、鍼灸マッサージで緩和しますが、精神的な症状は効果を出すことが難しいと思われます。私は話を聞いてあげて、すこしでも気持ちが落ち着くようにと鍼灸マッサージを施して癒しております。

幸いなことに2016年度も2週間に1回のペースでボランティア活動があります。

微力ながら、これからも応援したいと思います。

一関支部

支部長 館下 正則

今年は暖かな年初めとなりました。

さて昨年を振り返れば、世界各地に広がるテロ、あるいは、台風、豪雨などの自然災害が頻発した年でした。政治においては、戦後70年を迎えた2015年に、集団的自衛権の行使を認める安全保障関連法が国会で成立し、また沖縄では基地移転問題が宙に浮いた状態です。

良いニュースは岩手が誇る、野球の大谷選手の活躍、東北代表フィギアの羽生選手、日本を羽ばたいて世界で活躍する、ラグビーの五郎丸選手の活躍でしょうか。

平成28年が希望に満ちた年になりますように努力したいと思います。

平成27年度の活動報告

会員動向 11月 奥友清氏氏退会 現在会員 10名

活動報告

4月12日 定期総会（福祉センター）7名出席

5月17日 第1回慰問治療（関生園 福光園ケアサポートセンター） 7名で36名施術

7月12日 第2回慰問治療（関生園 福光園ケアサポートセンター） 7名で20名施術

9月27日 第34回一関国際ハーフマラソン大会マッサージボランティア（鍼灸の日記念事業として、県師会と共催で行った。）県師会3名、一関9名で100名の選手を施術した。

その他、県の事業、東鍼連、研修会への参加及び、協力を呼び掛けております。

大船渡支部

支部長 古水 健吾

平成 27 年度の活動は次のようなものでした。

4 月 5 日、 27 年度支部総会 大船渡温泉

9 月 6 日、 マッサージ奉仕 富岡荘と祥風苑

12 月 13 日、 忘年会 海浜館

その他、 釜石ボランティアに協力

27 年度も、支部会員、ボランティアのみなさんの協力の中活動を行うことができました。

28 年度も、まずは今年度並みの支部活動ができたかと考えています。

また、県師会の行事へも、できる範囲で参加協力ができたらと思っています。

震災から 5 年。町は、復興が進んでいます。

そんな中、支部の状況はそれぞれにがんばってはいますが、震災前の状況には戻れていません。

今後も、まだ厳しい現実ですが、復興に向けて少数精鋭で活動して行きたいと思います。

県師会文庫一覧

県師会文庫 本の部

NO.1 (点字)

「おうちで簡単！お灸エステ」 北川 毅 (全 2 巻)

以下は全本活字本です。

鍼 灸

- ・ 脉から見える世界
- ・ 劉勇の疾患別臨床 鍼灸テクニック
- ・ 反応点治療
- ・ 鍼灸医療への科学的アプローチ
- ・ 婦人科の針治療
- ・ 図解臨床ツボ療法
- ・ 鍼灸治療における感染予防と指針
- ・ 刺絡治療法
- ・ 超常識難病の調伏策を提案する
- ・ 皮下針法
- ・ 長友・MP 鍼灸講和八十八輯
- ・ 鍼灸補瀉要穴之図
- ・ 鍼灸病症学
- ・ 類経色脉偏
- ・ 奇経治療
- ・ 経絡の研究
- ・ つぼ療法ハンドブック

- ・フジイ物理療法
- ・鍼灸科診療学
- ・鍼灸臨床における医療面接

雑誌 毎日ライフの鍼灸特集もの ※3冊

鍼灸開業繁盛の秘訣 ※古い(戦前)ので現代には適さないかも

○中医学もの

- ・手根・足根針
- ・最新中医鍼灸穴位掛図
- ・中国の新しい耳針療法
- ・鍼麻醉

○柳谷 素霊 著

- ・万病に効く強壯灸と治療灸の秘訣
- ・鍼灸医術の門
- ・図説鍼灸実技
- ・鍼灸医学全書 ※第2巻と4巻のみ
- ・簡明不問診察法
- ・秘法一本鍼伝書

○代田 分誌 著

- ・鍼灸真髓
- ・鍼灸治療基礎学
- ・鍼灸治療臨床学
- ・鍼灸読本
- ・洞刺の手引

○間中 喜雄

- ・鍼灸臨床医学
- ・灸とはりの効用
- ・お灸の研究
- ・平田式熱針刺激療法

○赤羽 幸兵衛 著

- ・鍼灸治療法

マッサージ・手技療法

- ・日本マッサージ術講義
 - ・技術編
 - ・応病編
- ・足の反射療法教本
- ・ノンスラストによる関節モビライゼーション
- ・モビリゼーションテクニック
- ・浪越式秘伝指圧
- ・軟部組織の診かたと治療
- ・オステオパシー姿勢保健均整法
- ・整体術技法皆伝書

- ・ 身体均整法 ※20 冊

その他の療法

- ・ 吸角療法
- ・ 電位療法
- ・ 過労性構造医学
- ・ イトオテルミー ※2 冊
- ・ 良導絡 ※4 冊

一般医学

- ・ 治療学概論
- ・ 治療学提要
- ・ 打診と聴診
- ・ 脊椎『カリエス』の診断と治療
- ・ 神経領帯療法
- ・ 人体の驚異
- ・ 図解 内科診断検査法手技
- ・ 予後及付随症状・合併症・併発症・後胎症之治療
- ・ 暮らしの医学百科

食事療法

- ・ にんにく健康法
- ・ クコの効用
- ・ おかず健康法
- ・ 新食養療法
- ・ 食養料理法
- ・ 東原先生と乳酸菌生産物質

古 典

※以下は全てが和綴装丁本であり、古い書物が多く、傷付いているものや、虫食いされているものもあります。そのため、文字が読みにくいページが多々あります。

また、読書には漢文と古文の知識が必要と思われます。高級な漢字辞典やその他の辞書が必携となると思われます。何故なら、多くは漢字のみで訳されておらず、訳されているものでも、合略文字の使用や古文の文章が用いられているからです。

なお、現在は訳されたものも出版されていることを付記しておきます。

- ・ 素問…一巻～一二巻
- ・ 靈樞…一～六巻
- ・ 難行本義…上下巻
- ・ 難行本義諺解…上下巻
- ・ 図解十四経發揮…上下巻
- ・ 十四経早合点
- ・ 十四経私語抄？ ※表紙傷んで読みにくく、草書体でこう書かれているようだ

- ・新刊十四経絡発揮
- ・骨度正誤
- ・漢方眼科秘典
- ・臓腑経絡詳解
- ・病因指南…上下巻
- ・鍼灸療法秘録
- ・婦人易産并小児符
- ・隧輸通攷…上中下巻 ※表紙が痛んでいるが、こう記されているようだ
- ・癰疽神秘灸経
- ・察病指南
- ・按摩手引

DVDリスト

NO. 1

東洋療法学校協会編 「求められる東洋療法 鍼灸編、按摩マッサージ指圧編」

NO. 2

キネシオテーピング法

1. 解説と肩こり編
2. 腰痛編
3. 関節編

監修指導 加瀬 建造

NO. 3

「体も頭も良くなる回転健康法」出演 栗田博士

NO. 4

栗田博士の臨床シリーズ 「まわひねりき両方 腰痛編」 1、2

NO. 5

栗田博士の臨床シリーズ 「まわひねりき両方 五十肩編」 1、2

NO. 6

栗田博士の臨床シリーズ 症状の本質を見抜け

part1 理論と実践

NO. 7

栗田博士の臨床シリーズ 症状の本質を見抜け

part2 実践

NO. 8

古典に環れ 柳谷素霊氏の心と技を伝える

前編「柳谷素霊氏とその鍼術」

後編「伊藤瑞鳳氏の鍼灸臨床」

NO. 9

日本気導術学会編 「気導術の真実」(平成 16 年録画)

NO. 10

東洋医学 講師 横山 卓

細胞 講師 林 純茂

NO. 11

○リングテストの基礎と臨床

1. 基礎テクニック
2. テストの臨床上の応用

NO. 12

○リングテストの臨床

part3 テストによる治療法

テレビニュース 「水の最新情報」 1, 2

NO. 13

誰でも出来る経筋治療 出演 明治鍼灸大学教授篠原 昭二

1. 経筋治療とは
2. 治療のポイント

NO. 14

操体法のすすめ 小崎 順子

ひとりでできる操体療法 今 昭宏

NO. 15

全鍼 「鍼灸を探る」

医道の日本 「新鍼法」 part1、2

NO. 16

経絡按摩基礎編 監修実技 田中 勝

1. 全身按摩
2. 運動療法と応用按摩

NO. 17

長野式鍼灸処置法の実際（入門編）

1. 長野式治療法の基本的処置法から
2. 腹症を中心とした長野式処置法

NO. 18 (DISK2 枚組)

松本岐子氏による錘鍼灸療法 1 part1 「長野先生に聞く」

part2 「臨床編」

NO. 19 (disk2 枚組)

松本岐子氏による鍼灸療法 2

part1 「臨床例 1 と 2」

part2 「臨床例 1」

NO. 20

石川文治叙勲式典・祝賀会（平成 16 年 5 月 23 日）

NO. 21

難波式骨体操

NO. 22

誰でも出来る整体（中級編）

NO. 23

チベット体操

NO. 24

すぐ実践、すぐ効果奇跡の整体術を習得する

NO. 25

古武術式楽々生活動作トレーニング

NO. 26

古武術式楽々マタニティー — 妊娠・安産トレーニング

NO. 27

難波式骨体操 2

NO. 28

難波式骨体操 3 — 難波式日常編

NO. 29

リンパドレナージ — ダイエット

NO. 30

ストレッチとテーピング

NO. 31

ヘッドスパ 究極のリラクゼーション — 心と頭皮をほぐすテクニック

NO. 32

レベルアップ・エクササイズ — 四十二式総合太極拳

NO. 33

平 直行 — 操体法

NO. 34

浅井 けい子 — 視覚気法と練丹操

NO. 35

片麻痺回復のための運動療法第 2 番

NO. 36

ビスタッチによる美顔術

CD リスト

NO. 1

「温泉療法ニッ行」 2011 年 9 月 18 日 東洋療法推進大会 IN 福岡

NO. 2

「笑って明るく生きる」 講師 島田洋七 2011 年 9 月 18 日 東洋療法推進大会 IN 福岡

NO. 3

「鍼灸体験発表—その時師会はどう動いたか」 講師 岩手・宮城・福島師会代表者（佐々木・山田・熊田） 2012 年 10 月 14 日 東洋療法推進大会 IN 静岡

NO. 4

「被災地で見た鍼灸の力」 講師 2012 年 10 月 14 日 有田芳生 東洋療法推進大会静岡

NO. 5

「安保徹講演」 講師 安保徹 2012 年 7 月 1 日 東鍼連宮城大会

NO. 6

「安保徹講演」 講師 安保徹 2013 年 10 月 20 日 東洋療法推進大会 IN 新潟

- NO. 7
2002 年 「技能を通しての心のケア」 青山 その子 日東医福島大会
- NO. 8
2002 年 「肩間接疾患と肉離れ」 日東医福島大会
- NO. 9
2002 年 「星状神経節の置鍼療法」 渡辺一夫 日東医福島大会
- NO. 10
2002 年 「脈管外循環路について」 日東医福島大会
- NO. 11
2002 年 「鍼灸医学の最良の場としての鍼灸マッサージ」 永田勝太郎 日東医福島大会
- NO. 12
2003 年 「アメリカにおける鍼臨床事情」 中澤 弘 日東医長野大会
- NO. 13
2003 年 「リンパドレナージの実際」 荒井つねのり（後藤学園） 日東医長野大会
- NO. 14
2003 年 「腎疾患に対する東洋医学的アプローチ」 川島明 日東医長野大会
- NO. 15
2003 年 「生活習慣病について」 坪井医師 日東医長野大会
- NO. 16
2004 年 「アメリカにおける臨床の実際」 中澤 弘 日東医京都大会
- NO. 17
2004 年 「スポーツ選手の膝関節障害の鍼灸マッサージ治療と予防」 宮本 俊和 日東医
京都大会
- NO. 18
2004 年 「医療としてのマニュアルリンパドレナージと圧迫療法 荒井 つねのり 日東医
京都大会
- NO. 19
2004 年 「予防医療としての鍼灸マッサージの今日的意義」 山尾 隆
- NO. 20
2004 年 サルトジェネシスと鍼灸マッサージ 永田 勝太郎 日東医京都大会
- NO. 21
2004 年 鍼灸マッサージと免疫系 今西 二郎 日東医京都大会
- NO. 22
2005 年 「健康創成論」 永田 勝太郎 日東医静岡大会
- NO. 23
2005 年 「人工透析からの開放を目指して—鍼灸マッサージを中心に」 川島 明 日東医
静岡大会
- NO. 24
2005 年 「統合医療の中での鍼灸マッサージの役割」 今西 二郎 日東医静岡大会
- NO. 25
2005 年 「脳は若返る」 高田明和 日東医静岡大会

NO. 26

2005 年 「脳疾患に対する予防」 坂本 歩 日東医静岡大会

NO. 27

2006 年 「パーキンソン病の外科医療について」 和歌山医科大学 板倉 徹 日東医和歌山大会

NO. 28

2006 年 「灸療法のすすめ」 愛媛県立中央病院東洋医学研究所 光藤 英彦 日東医和歌山大会

NO. 29

2006 年 「難病に対する東洋医療のアプローチ」 洛和会医師 中村 重信 日東医和歌山大会

NO. 30

2013 年 7 月 7 日 「放射能の恐怖」 松江 寛人 東鍼連福島大会

NO. 31 (19 枚組)

東洋鍼医学会編集 「病症論」 井上恵理講演 1 ～ 19

NO. 32 (5 枚組)

東洋鍼医学会編集 「霊枢解説」 岡部素道講演 1 ～ 5

NO. 33 (16 枚組)

東洋鍼医学会 「難経講義」 井上 恵理講演

編集後記

広報部長 松下 優子

今年も早いもので桜の季節になってしまいました。

会報の編集集中に熊本で大地震が起き、大変な事態になっております。日々平凡な毎日に不平をいっていますが、平凡な毎日こそが、いかに尊いことであるかということに、改めて気づかされています。被災された方々が早く日常生活を取り戻すことができるようにと祈るばかりです。

一方、私達が置かれている状況もあり良いとはいえませんが、そんな中ボランティア、研修会、交流会等へ参加し、意欲的に行動されている会員もいるようです。

自分が出来ることを無理なく行うことで、誰かの役に立ち、そしてそれが自分のためにもなるのですから、多少の努力はしなくてはと思っています。

今年度は多くの事業を予定しておりますので、みなさんもふるって参加し、充実した年にしましょう。

最後に会長はじめ、会報の発行にご協力くださった皆様に心からお礼申し上げます。

奥付

一般社団法人 岩手県鍼灸マッサージ師会
平成27年度 会報第48号
平成28年5月1日発行

発行人 会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057

編集責任 広報部長 松下 優子
〒020-0667 滝沢市鶉飼向新田7番地-227
電話 019-687-2405

事務所（事務局）会長 佐々木 実
〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地
電話 0195-77-2057
ホームページ <http://iwateken-harikyumasikai.jimdo.com/>

郵便振替 岩手県鍼灸マッサージ師会 02360-9-19833

印刷所 有限会社 浜印刷
〒020-0667 滝沢市鶉飼洞畑56-29
電話 019-654-3569